

平成30年 3月市長定例記者会見

日 時：平成30年3月1日（木） 午前11時～11時30分

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、朝日新聞、北日本放送、射水ケーブルネットワーク、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、港湾・観光課長、市民課長、未来創造課長（司会）

質疑応答の概要

Q1. 2020年の外国語の教科化やインフルエンザ等による学級閉鎖に備えて、氷見市では小・中学校の夏休み期間を5日間短縮する。県内では既に立山町が短縮している。射水市では、短縮を検討しているか。また、その理由を教えてください。短縮を検討していないのであれば、今後検討することはあるのか伺いたい。

A1. 現状では、夏休みの短縮は予定していない。2020年度から新しい学習指導要領が全面適用され、小学校5・6年生においては英語が教科化され、3・4年生では外国語活動に充てる授業数が増える。射水市では、新しい指導要領の全面適用に向けて、平成30年度から小学校における英語教育の拡充を予定している。小学校5・6年生については、年間35時間外国語活動を行っているところを英語科として年間50時間、小学3・4年生については、年間10時間外国語活動を行っているところを15時間とすることを計画している。全面実施になると、小学校5・6年生では年間70時間、小学3・4年生では年間35時間の授業時間が必要になる。射水市では、全面実施を見据え、時間数の拡充を図りながら、ALTの配置や教師の外国語指導力の向上に向けた研修などを行い、平成32年度に向けてしっかり準備をしていこうと考えている。そうした中で、これまでよりも外国語活動や外国語授業の授業数は増えるが、現状の中で対応可能であると判断しており、夏休みの短縮を予定していない。

全面実施となると、かなりの時間数の増加となる。今後の全面実施に向けて、夏休みの短縮という対応でよいのか、別の方法はあるのかも含めて検討していきたい。（市長）

Q 2 . 3月定例会の提案理由説明の中で、平成30年度に新湊地域の都市再生整備計画事業に着手するという話があったが、旧新湊庁舎の利活用を絡めて、現段階でどのような構想があるか教えてほしい。

A 2 . しっかり検討しながら固めていくことになるが、地域で活動するNPO法人と、空き家の利活用や移住・定住の支援について連携を密にし、有効活用を図りながら、地域の活力を高めていくことを考えている。また、旧新湊庁舎の跡地については、民間事業者から提案のあった内容を議会に説明し、ご意見をいただきながら、3月末までの優先交渉事業者の決定の可否について話し合っている。新湊地区の市街地であり、地域において高齢化が進み、空き家が増える中で、地域の賑わいを創出していく大きな意味合いを持つ事業になる。しっかり検討し、地域全体の取組と連携し、エリアとしての魅力を高めていく計画にしていきたい。(市長)